

非財務ハイライト

CSR 活動領域

食と健康

取組みと実績



責任ある飲酒

小学生向け啓発ツールの配布数量

40,124 部

アサヒビール(株)では20歳未満飲酒防止に向け、学校や家庭で利用できる小学生向け啓発ツールを作成しています。学校では授業の副教材として、家庭では保護者と一緒に学ぶツールとして活用されています。



食の安全・安心

「食の安全・安心」に関する学会発表件数

5 件

アサヒグループでは、グループ全体の品質保証体制を技術的な側面からも高度化させており、農薬や自然毒などの分析法開発に関して学会発表を行いました。



栄養・健康

「和光堂栄養相談活動」の参加人数

約9万3千人

アサヒグループ食品(株)では、栄養士など、専門知識を持つ社員による講座や相談活動を実施しています。現在は離乳期のお子様のいる保護者だけでなく、シニア向け食品のユーザーなどにも対象を広げています。



環境

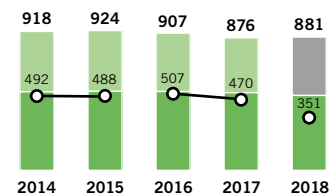
取組みと実績



気候変動

CO₂排出量 **881**千トン

パリ協定やSDGsを踏まえた新たな中長期目標「アサヒカーボンゼロ」を2018年に設定し、事業を通じたCO₂排出量の削減に取り組んでいます。



■ 国内Scope1、2(千トン) ■ 国内Scope3(千トン) ■ 海外Scope1、2(千トン)
○ 原単位(kg/百万円)(売上高・売上収益)

* 2016年以降は原単位の算出に国際会計基準(IFRS)に準拠した売上収益を適用。
* 2014~2017年まではグリーン電力使用によるCO₂排出削減貢献量を反映。
* 2018年度よりScope1、2については国内と海外(欧州、オセアニア)に集計範囲を拡大。
* 2018年よりScope3については集計範囲を拡大し別途集計とした。(11カ年財務・非財務サマリーに表示)



循環型社会

副産物・廃棄物再資源化比率 **100%**

余剰酵母を食品素材や農業資材に活用するなど、副産物・廃棄物の再資源化に取り組み、循環型社会の構築に貢献しています。グループ本社と国内製造拠点の再資源化比率は2018年も100%となりました。



生物多様性

森林保全活動の活動拠点数・活動回数・参加人数
国内 **13** 拠点・**166** 回
7,463 人

工場の水源地や事業場近隣の森林の保全活動を積極的に行いました。社員やその家族のほか、地域の方々にもご参加いただき、植林や下草刈りなどを実施しました。

本ページでは、前期までのマテリアリティに基づいて成果をご報告しています。
アサヒグループの新たなマテリアリティについてはP.29をご覧ください。



P.29

人と社会

取組みと実績



安全で豊かな地域社会

社会貢献
支出額

20億 2,600万円

事業を通じて健康づくりや次世代育成を応援する取組み、災害被災地支援などの社会貢献活動を実施。東日本震災復興応援「希望の大麦プロジェクト」では、被災土地で栽培した大麦を活用し、地域の新たな産業としての仕組み構築に取り組んでいます。

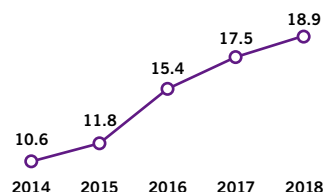


人材育成・ダイバーシティ

女性管理職比率

18.9%

主要事業会社ごとに女性活躍推進の目標を掲げ、取組みを進めています。その結果、女性管理職比率も着実に向上しており、2018年には女性の執行役員が新たに就任しました。



○ 女性管理職比率 (%)

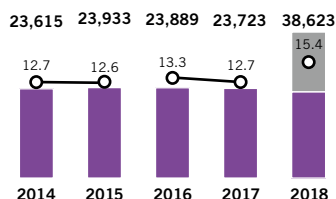


持続可能な水資源

水使用量

38,623 千m³

製造拠点における水使用量の削減や再利用の促進を行うことで、水使用量の削減を図っています。また、取水・排水においては環境負荷をできる限り小さくできるよう努めています。



■ 国内水使用量(千m³) ■ 海外水使用量(千m³)

○ 原単位 (m³/百万円) (売上高・売上収益)

* 2016年以降は原単位の算出に国際会計基準(IFRS)に準拠した売上収益を適用。

* 2018年より国内と海外(欧州、オセアニア)に集計範囲を拡大。



持続可能なサプライチェーン

サプライヤー
CSRアンケート回答数

470社

2018年は、国内事業会社だけでなく海外事業会社のサプライヤーもアンケートの対象に加え、二次サプライヤーも含めて470社から回答を得ました。今後、アンケート結果をサプライチェーンの課題解決に活かしていきます。

